



圓頓寺 たより

発行所
山鹿市山鹿55
圓頓寺
☎43-2424

第三十三世

順信院 日蓮

悪の中の大悪は我が身に其苦をうくるのみならず、子と孫と末へ七代までもかかり候けるなり。善の中の大善も又々かくのごとし。目連尊者が法華経信まいら



日蓮聖人像（静岡・妙法華寺蔵）

せし大善は、我が身仏になるのみならず、父母仏になり給。上七代下七代、上無量生下無量生の父母等存外に仏となり給。乃至子息・夫妻・所従・檀那・無量衆生三悪道をはなるのみならず、皆初住・妙覚の仏となりぬ。故に法華経第三云

願以此功德 普及於一切
我等与衆生 皆共成仏道
云云。
「孟蘭盆御書一七七三」

孟蘭盆法要会

御盆の候、檀信徒の皆様方には、日々、日蓮大聖人

さまへのご報恩やご先祖さまへのご供養などの功德を累ねてこられ、菩提寺の正法布教伝導の拠点である道場伽藍の護持の本分を尽され、そして過去、現在さらに未来に「法華経・お題目」を信じてきた大善こそ、我が身が仏に成るだけではなく、父母も仏に成ることが出来るのです。さらに上七代下七代の子孫に到るまでも仏に成ると宗祖は教示されています。

今般、六次行事の孟蘭盆

の法会を迎えるにあたり、特に、来る七月二十四日（木）、當山では孟蘭盆施餓鬼供養会並びに土用の丑の日祈禱会が奉修されます。皆様と共に、ご家族揃ってご先祖様へ積善の功德を送り報恩のまことをささげたいと存じます。

特に、檀信徒としての本分を尽すため、諸行事のご奉仕など、信行受持を深められ種々の高配に対し、役員一同共々心から深謝いたし、暑中御見舞申し上げます。

新役員に期待

さて、三月の護持会總會において、法人役員補欠選定と護持会規定に従って、護持会役員補充について討議審議いたしました。



挨拶する山下会長と総代さん

諸役員については、当山の護持会活動諸般に携わってこられ、現本総代で婦人会会長を歴任された、山鹿市住の「山下とし子」氏を責任役員及び筆頭本総代に、又、現本総代の山鹿市住の「阿蘇品宗雄」氏は護持会副会長再任と事業担当部長をお願いし、山鹿市住の「井上勝介」氏に、本総代及び護持会副会長及び信行担当部長に、又、新本総代

及び責任役員補佐に、前菊鹿町長で現山鹿市社教会会長の「栗原辰也」氏と新本総代及び会計長に、鹿央町住「原文雄」氏の皆様に代表役員住職として、委嘱申し上げます。

(護持会總會資料参照)

旧役員に感謝

特に、前筆頭総代の「鬼木信次郎」氏は、篤き御信仰によって昭和五十六年以來永きに亘り護持会役員として御尽力を賜り、殊に六年余当山の責任役員と護持会会長を併任され法責の使命を全うされ、また、「田原久」氏は十年余本総代と護持会副会長を併任され、寺門興隆と宗門発展に誠心誠意御尽力を賜り、御退任に当り多大の法勲にたいし

深甚の敬意を捧げ、会員一同感謝の微意を表します。さらに、「鬼木信次郎」氏「田原久」氏各位には護持会顧問に就任されても、住職の相談役として引き続きご助力を賜り、報恩行の誠を尽されますようお願い申し上げます。



鬼木顧問(左)、田原顧問(右)

ここに、当山住職として、退任される、「鬼木」氏「田原」氏には「居士」号

ニッセイ同和損害保険株式会社 熊本支店

〒860-0804 熊本市辛島町5-1 日本生命熊本ビル
☎(096) 353-3491 FAX (096) 355-7380

に叙し、当山の特別法号位に列し、その法績に対し衷心より報いて、御礼申し上げる次第でございます。

宗祖は、諸法実相抄に「末法にして妙法蓮華經の五字を弘めん者は男女は嫌ふべからず、皆地涌の菩薩の出現にあらずは唱へ難き題目なり。日蓮一人初めは南無妙法蓮華經と唱へしが、二人三人百人と次第に唱へ伝ふるなり。未来も又然るべし。(中略)行学の二道をはげみ候べし。行学たへなば仏法はあるべからず。我もいたし人をも教化候へ。行学は信心よりをこるべく候。力あらば一文一句なりともかたらせ給べし。」、お言葉にあるように今後、新旧役員の各位には、とくに日蓮大聖人様の勅命として深く受け止められ、宗祖の

ご教示の如く「異体同心」の心をたいして、當山の護持運営と、お題目の灯を一人でも多く伝える使命をもつて、教宣拡張に邁進し寺門興隆に精進されますよう祈念いたします。



初講法要で導師を勤める住職

長椅子奉納に感謝

今般、鬼木信次郎様より筆頭総代退任記念に「本皮

張長椅子二脚」、田原久様より「布張椅子三脚」又、本年度寒修行成満記念「布張長椅子八脚」を信行会各位より奉納頂き御礼申し上げます。

総登壇諸本山参拝団

最後に、宗門は、ご生誕八百年記念事業推進運動の本年度のスローガンとして、「いのちに合掌」を決定し、日蓮大聖人様や清正公大尊儀によつて示された法華經流布の願いを現実のものにするために、「お題目を次世代へ伝える運動」を掲げております。

當山として、これらの、聖日に向い、祖恩報謝の一端に擬せんと欲し、特に、平成二十二年に清正公御入滅四〇〇年の嘉辰を目途と

有限会社 盛文社印刷

山鹿市下町1807
TEL 0968-43-2604
FAX 0968-43-6075

山鹿市上下水道工事指定店
給排水・衛生設備・冷暖房設計施工



資 合 社 **とらや商会**

山鹿市鹿校通1丁目3-29
☎ 43-2212 代
(FAX) ☎ 44-5900



満面の笑みの住職（新年祝禱会）

するとき、本年は慶讃記念第一期事業として、左記の通り、「祖山總登詣団参」などを発願しております。平成二十年十月二十二日～二十五日に、宗祖日蓮大聖人の聖地「總本山身延山久遠寺」、村雲御所「瑞龍寺」、宗祖比叡山遊学の地「定光院」、京都諸本山「本満寺・妙顯寺・本法寺・立本寺」等、諸本山へ三泊四

日の報恩参拝団を企画し、日蓮大聖人様と清正公様への御報恩と、当山のこれからの諸事業達成と自己の信行の研鑽成就をお願いするために実施致します。

村雲御所「瑞龍寺」は、後陽成天皇より京都村雲の地に建立され、瑞龍院門跡の由緒により村雲御所と呼ばれています。

明治二十年、宗祖ご入滅六百年遠忌に瑞龍院日栄尼公が圓頓寺に來山され大法要営む、又、昭和八年、宗祖入滅六百五十年遠忌並びに當山開創三百年祭大法要を営み、瑞龍院日淨尼公大導師として御來山されています。

特に、村雲日栄尼公は、圓頓寺にご親教に山鹿へ巡られ、明治二十年、當山に村雲婦人会を創設され、爾

来、百二十二余年の幾星霜を重ね、今日の婦人会として受継がれているのです。當山とのかかわりの深い門跡本山です。尚、定員五十二名となりましたので、締め切りさせて頂きます。

今後とも「護法護持」と「寺門興隆」「徒弟育成」の為、役員一にして邁進いたしますので、檀信徒護持会会員各位の皆様の実心で一層のご支援ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

南無妙法蓮華經

圓頓寺ホームページ

www.entonji.jp

※アクセスをお待ちしています。



拜む心で尊い品を

梅谷仏具店

本店 〒812-0027 福岡市博多区下川端町10-9

TEL 092-271-0456

年中無休 駐車場完備

支店 〒819-0373 福岡市西区周船寺3-9-4

TEL 092-806-7499



日蓮大聖人のおこし

開目抄

この仏陀は三十歳
道より八十御入滅に
いたるまで五十年が
同一代の聖教と説き
たまえり 一字一句
皆真言也 一文一偈
妄語にあらず

日蓮聖人が佐渡へ流罪に
なり、塚原三味堂という墓
地に建てられた一間四方の
小屋で、五十才のお年の十
一月初めから五十一才の四
月の初めまでお過ごしにな
りました。
寒さ厳しい佐渡の地で、
雪の吹き込むような荒れた

小屋で、蓑笠を着て雨風を
しのぐような状況で、百人
の内九十九人が法華經の信
仰を捨て、わずかに残った
弟子信徒に宛てて書かれた
お手紙です。

この困難の中で書かれた
お手紙には、日蓮聖人の魂
の叫びが、法華經を広めて
いく悦びが、墨鮮やかに大
きな力のこもった文字で表
されていたそうです。

開目とは、世間の人々の
迷いを除いて法華經に対し
又、法華經の行者への正し
い理解を与える、という意
味です。

そこで、日蓮聖人は人の
学ぶこととして儒教、バラ
モン教、仏教の三つを挙げ、
なぜ仏教を選び取られたか



日蓮聖人註画讃「佐渡配流（部分）」（京都・本圓寺蔵）

航空券・JR・個人旅行・団体旅行

株式会社 **ワールド観光**

TEL 0968-72-5656

玉名市中尾426-3

を示されます。

人として大切にされるものが三つある。従者としては上に立つ人を敬い、弟子としては師を敬い、子としては親を敬い社会が治まってくる。その人としての行いを教えるものに中国では、孔子が儒教を説き、インドではバラモン教が説かれてきた。儒教は現在のことを説き、過去、未来のことは説かない。それで儒教では本當の親孝行はできないとされました。唐の妙楽大師は、儒教により人々が人の道を大事に思い教えを学ぶことを貴ぶ事を知っていたので、仏教が良く広まったといわれています。

が、それを手がかりとして仏の説く「自他ともに仏」という利他行へと歩を進めることができる。

仏教は、思いやりの心を持ち、変化の多い人生を迷わず乗り切ることができ教えであり、田の中から米や麦が生まれるように、仏の教えの中から人々の幸せが生まれてくると、聖人の



護持会副会長 阿蘇品宗道

第二十五回護持会総会が三月十五日開催されました。

護持会総会・新体制発足

心の柱として取り出されたのです。



福岡県久留米市 妙正寺住職 田中 潮祐

総会は出席確認、開会、玄題三唱の後、鬼木会長、

住職、副住職、豊田婦人会会長、木下信行会会長が挨拶して谷議長を選出、議事に入りました。

十九年度の行事報告、会計決算報告、監査報告、そして二十年度の年間行事案、予算案が審議され、厳しい

財政の中にも檀信徒の護持、護法のため地区役員、代議士の皆様から満足いただける運営と認められ、満場一致で承認可決いただきました。

本総会では役員改選が行われ、鬼木護持会会長（筆頭総代）、田原顧問がご勇退され、山下トシ子さんが護持会会長（筆頭総代）に就任されました。新しく元菊鹿町長だった栗原辰也さんが総務に、鹿央の篤信家原文雄さんが会計長に就任され、新しい体制で出発致します。鬼木総代、田原総代様には永年圓頓寺の発展と護持会の健全運営に多大なご苦労ご尽力を賜りました。改めてお二方のご功績に深甚の敬意を表すものです。本當にありがとうございます。

私も山下護持会会長（筆



感謝状贈呈：鬼木前会長

頭総代)のもとに、事業担当の副会長の推挙を受けました。多くの有能なご信徒の中に私ごときが、事業担当として席を汚さぬよう気を引き締めています。

さて、私達檀信徒は宗祖ご生誕八〇〇年を控え、記念事業の一つである本堂の瓦葺き替えが永年の懸案でありました。台風の度にご内陣への雨漏り被害も経験



感謝状贈呈：田原顧問

し、大事に至らぬうちに取り組まなければと思います。今は山鹿町内のお寺はほとんど土瓦に葺き替えられており、圓頓寺の本堂も他寺に負けないよう、いぶし銀に輝く本堂の葺が威風堂々と山鹿の街にそびえる事を夢に描いています。

しかし、この事業に対しても全檀家の皆様のご理解とご協力がなければなりません。



感謝状贈呈：豊田婦人会会長

せん。このようなご時世ですが、私たちの祖先が心血を注いだ、この圓頓寺という心のよりどころを磨き輝かせようではありませんか。

山下護持会会長(筆頭総代)を支え、宗祖ご生誕八〇〇年に向かって、一大事業を成し遂げる決意を整えていかなければなりません。よろしくお願い申し上げます。

合掌

婚礼・着付

サンロード大住

山鹿市古閑 1286-3

☎ 44-6277

護持会会長就任ご挨拶

護持会会長 山下トシ子



はやお盆の季節となりました。檀信徒の皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

圓頓寺たより編集委員会より、護持会会長就任の挨拶文の原稿依頼を受けました。さてと考え、思い出したことを有りのままに記してみようと考えました。有りのままを書くことと弾みもつき楽しめる。有りのままを書くのは実に穏やかで楽し

い。人は皆楽しくなければ良くないと思っています。心から尊敬申し上げます。

りました前会長鬼木信次郎様は、男の優しさを十分にお持ち合わせのお方でした。護持会会長を退任の意向と、お膝のご養生専一になりさいますようお祈りしております。

時にその後任が私にめぐりくるなんて夢にも思っています。降って沸いたような出来事です。

優しいお上人様のお言葉が夢の中のお話のように流れます。『あなたは数十年の永き間、当山のためにたゆまず勤めてくれました。』

最後のお勤めとして立派に会長を果たして、それをお土産とし、亡夫「教行院法護日徳居士」の膝元に持参していただきたい。つまり冥土へのお土産として持たせてやりたいのです。『何というお慈悲の深いお言葉でしょうか。お上人様は三十年ほど前に亡くなった夫のことを、まだ懐かしく思っていていらっしゃいます。幸せな亡夫と想っておりま。感極まって坊主様の方へ眼をやりますと、お観音様の化身のような美しい雰囲気をお持ちです。『どうかお願いいたします』と頭を深くお下げになっておられます。泣きたいばかりの私は夢中で、辞退の言葉を並べています。護持会役員の方、檀信徒の中にもご立派な適任者がいらっしゃることを



郷土に生まれて味ひとすじ

仏・祝会席・鉢盛・寿司



プラザ店 ☎ 44-4743 ☎ 43-1739
仕出部 ☎ 44-5804



一字一石写経する山下会長

十分知り尽くしている私です。何故私に。いよいよ解りません。夢中で辞退の言葉を並べ立てる自分の姿が惨めで哀れで、どうする術も知らず泣き出したい孤独感に襲われました。ここで涙は禁物。こぼれないように上を向いて、お上人様のお目に重ねるようにして、感激の涙も決心の涙もこぼさないように、心の奥ではお受けする決心が育つてゆ

くのが分かります。落ちつくまでの時間はそうかからなかったのです。我に返り、はつきりと『お受け致します』と申し上げました。しかし、突然のことでも分かりません。『ご指導よろしくお願ひします』とだけ申し添えました。自分の老いも迂闊なことに感じています。何時死んでもおかしくない歳であるのに、冥土への土産と聞くとビックリ仰天の有さまで。まだ死にたくないというところが実感です。

会長挨拶とはほど遠いものとなりましたが、私の実の考えです。まだおこがましく、私が意図する会長の挨拶が書けません。自然のままの私でお許し下さい。誰もが幸せを感じ、安心してお寺参りが出来るやす

らぎの場所でありたいのです。何もかもが人生の勉強です。これからは檀信徒皆様の一人お一人の方々のお顔を覚えたりのお楽しみも湧いてきます。

寺門興隆のために不惜身命の気持をもって、護持会

護持会会長退任ご挨拶

護持会前会長 鬼木信次郎



檀信徒・圓頓寺関係の皆様、ご健勝のこととお喜び申し上げますと共に、ひとこと御礼を申し上げます。

会長を勤めさせていただきたいと決意を致しております。四名の総代さんのご助力、全お檀家様のご協力をお願い申し上げます。お願ひ申し上げます。

南無妙法蓮華經

三月十五日の護持会総会をもって、平成十四年三月十六日の総会から、三期六年間務めさせていただいた護持会会長を、退任いたしました。

微力ながら護持会会長並びに筆頭総代の職責を汚すことなく、短期間でございましたが全うできましたこと、皆様檀信徒ご一同様の力添えがあったればこそでございます。心より厚く御